

町の財政状況と改革内容を説明

町政説明会



2月26日の南条地区公民館での開催を皮切りに、町政説明会が開かれました。

まず増澤町長が

「平成17年1月に南条郡内の南条町、今庄町、河野村の2町1村が合併し、南越前町となり2年が経過しました。合併当初は、住民サービスを低下させなくても、財政基盤を強化できるという見解でスタートしましたが、国の打ち出した三位一体の改革による、地方交付税の減額、地方分権型社会の構築による町の行政需要の拡大など、また、税源移譲というものの、大企業のない当町は増収が見込めないことなど、本町の財政状況は非常に厳しい局面を迎えることとなりました。」

そこで、町の財政の実情を町民の皆さんにご説明させていただき、今後取り組む財政改革の内容についてご協力願いたい。」とあいさつ。

町の財政状況と改革内容、人件費の抑制、施設の民営化、上下水道料金の改定について説明しました。



町の財政状況

合併直後の平成17年度一般会計予算：

百二億八千万円

学校建設などの大型継続事業を実施した平成18年度一般会計予算（当初）：

九十八億九千万円

これらは、地域の均衡と一日も早い地域の一体性を目標とし、合併前と変わらない住民サービスを維持していくための予算でありました。

しかしながら、国からの地方交付税の減額

平成17年度 四十五億五千万円↓

四十一億九千万円（三億五千万円の減）

平成18年度 四十四億一千万円↓

三十七億円（七億一千万円の減）となり、これらの不足分を事業の縮小や経費の節減、または、町の貯金である財政調整基金、減債基金を取り崩すことでのべこととなりました。

合併時に持ち寄った両基金の合計

十億六千万円

合併直後の平成16年度↓

一億五千万円の取り崩し

平成17年度↓一億五千万円の取崩し

平成18年度↓取崩しなし

平成19年度↓一億八千四百万円の取り崩し（予定）

残額は、五億七千七百万円と、残り少なくなっています。

この結果

経常収支比率↓95・9%

平成17年度決算における経常収支比率は、

95・9%で県内市町の平均87・8%を上回る

県内ワースト2位。

加えて、財政力指数も0・261と県内ワースト2位。

町の現状は、

自主財源が3割以下であること。

人口も企業も増えないため、大幅な税収が見込めないこと。

国の補助支援がなくては、町の財政は成り立たず、しかしながら地方交付税の増額が今後見込めないこと。

以上のことから、歳出の削減を早急に図ることが必要で、次のことを実施することとなりました。

- ・ 町の補助金を見直し事業内容を絞る
- ・ 町の組織の見直し
- ・ 公共事業の適正な管理運営——上下水道料金

◎補助金の整理合理化

団体への補助金については、一律2割を削減し、政策的事業の補助金については1割の削減を目標とすることで取り組みました。

補助金には、町独自の補助金、国や県の財源を伴う補助金などがありますが、性質別に評価し検討しました。

評価方法としては

- ・ 事業自体の効果が高く継続を要するもの

- ・ 一定の成果を得、縮減、廃止に取り組んでも支障がないもの
- ・ 合併協議や要望等により、早急に縮減廃止等に取り組めないものの

- ・ 社会情勢等の変化により、縮減廃止が可能なもの

に分け、削減方法は概ね3年間を目途に廃止・2割削減・1割削減・その他補助率の引き下げや、定額に改めるなどとして、削減方法を決定。

その結果

削減額の合計は（3年間）

約九千三百七十万円

廃止する補助金分

六千六百七十四万五千円

2割削減分 九百三十三万九千円

1割削減分 一千九十七万六千円

補助率引き下げ定額分

六百六十二万七千円

となり、

平成19年度削減額（見込み）は、七千三百万円となります。

人件費の削減

合併直後から、職員採用の抑制など、人件費の削減に取り組んできましたが、さらに19年4月から次の削減を行います。

- ・ 町長、助役、教育長―給料カット

町長↓10%カット、助役、教育長↓5%カットを実施

- ・ 一般職員 ボーナスのカット

- ・ 各種手当の単価ダウン

- ・ 役場組織の統廃合を進め、管理職を減らす

- ・ その他、町職員の早期希望退職を募る。

平成19年度削減額（見込み）は、二千二百万円となります。

公共施設の民営化

公共施設は、（財）南越前町公共施設管理公社が、33の施設を管理運営してきましたが、町職員の人件費を除いても、二億円以上町会計からの持ち出しをしています。町の財政も逼迫しており、これ以上の持ち出しはできないため、新たに指定管理者を選定し、民間委託を押し進めることとしました。

その間、町議会でご解をいただき、管理公社の議決を経て、公募し、指

定管理者を選定しました。その結果、平成19年4月から、花はす温泉そまやま、リトリートくら、きらめき等の施設を、青山観光サービス株式会社に管理運営委託します。

平成19年度削減額（見込み）

四千五百万円

上下水道会計の健全化

上下水道特別会計は、使用料金で維持管理を行う独立採算が基本ですが、現在不足分は一般会計から持ち出しを受けています。しかし、町の財政も厳しく、持ち出しが困難になつてきています。その上、各水道施設も、統合や老朽化に伴う更新の問題などが出てきているのが現状です。

このような状況の中、現在の上下水道料金は、前回の改正から10年以上経過しており、現在に至るまで不足分の持ち出しを受けていましたが、料金の改正により、経営の健全化を図ります。

料金については、合併協議会で3年間は現行のままの話し合いが行われました。今後、19年度に料金改定準備を行い、20年度から料金を改正していく予定です。

質問などを受け まとめとして

19年度から交付予定であった電源立地交付金が3年送りとなったことも財政を逼迫しているが、この交付金が、維持管理等に使えるようになります。今後の財政運営に役立てていきます。

町としては、まず支出を少なくし収入を増やす努力をし、三役の給料や団体の補助金カット、人件費の削減を行いこの2、3年を乗り切ります予定です。

しかしながら、都市の景気は回復しているが、大企業のない当町は大幅な増収が見込めないため、総合計画でも、行政改革を進めるよう答申を受けており、今後とも行政改革を進めていく予定です。

各会場とも多くの町民の方々にお集まり頂き、ありがとうございました。

